

## 船舶事故調査報告書

平成22年10月21日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年5月13日（木） 14時25分ごろ
発生場所	長崎県西彼杵半島東岸沖大曾根 長崎市長与港防波堤A灯台から真方位315°7,350m付近 （概位 北緯32°53.9′ 東経129°48.7′）
事故調査の経過	平成22年6月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 鵜渡越丸、57.85トン 120674、佐世保重工業株式会社（船舶所有者）、佐世保マリン・アンド・ポートサービス株式会社（船舶借入人） 21.11m (Lr) × 5.20m × 2.21m、鋼 ディーゼル機関2基、389kW（合計）、昭和52年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 65歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和53年4月21日 免状交付年月日 平成22年4月14日 免状有効期間満了日 平成27年9月13日
死傷者等	なし
損傷	両舷のプロペラ翼、プロペラ軸、舵板及び舵頭材に曲損 船底に擦過傷
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、旅客8人を乗せ、船首約1.0m、船尾約1.2mの喫水で、西彼杵半島東岸のゴルフ場棧橋（以下「本件棧橋」という。）を離棧し、約5ノットの速力で東進中、平成22年5月13日14時25分ごろ、同棧橋の東方約0.5海里の大曾根の暗岩にプロペラ翼等が乗り揚げた。 船長は、機関室等を点検し、浸水箇所や船体のき裂などが無いことを確認し、左舷主機の回転を上げると推進軸系に異音が発生するので、同主機の回転を下げ、主として右舷機推進系で航行を続け、長崎空港で旅客1人を下ろしたのち、佐世保港に入港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の中央期、波浪 ほとんどなし

<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本件棧橋へ運航するのは初めてであったので、海図で運航経路を調べ、同棧橋付近に暗岩が多く、大曾根に暗岩があることを知っていた。</p> <p>本船は、本事故当日の午前中、本件棧橋と約1.5km南方の一時係留場所とを往復した際には、大曾根を避けて航行していた。</p> <p>船長は、本件棧橋を発航する前に、本船より小型の旅客船（以下「小型旅客船」という。）が本件棧橋を離棧し、東進したのを見て、大曾根を通過したものと思った。</p> <p>船長は、本船と小型旅客船の喫水が同じくらいであるので、本船も大曾根を通過できるだろうと思った。</p> <p>小型旅客船の船長は、本件棧橋付近の運航に慣れており、暗岩を避けて航行していた。</p> <p>本船は、測深機、レーダー及びGPSを装備していなかった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、西彼杵半島東岸沖を東進中、船長が、大曾根にある暗岩の存在は知っていたが、小型旅客船が大曾根を通過したので本船も通過できると思い込み、大曾根を航行したため、大曾根の暗岩に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、西彼杵半島東岸沖を東進中、船長が、小型旅客船が大曾根を通過したので本船も通過できると思い込み、大曾根を航行したため、大曾根の暗岩に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	